

互いに認め合い、人との関わりを楽しむ幼児の育成 -異年齢の幼児と共に楽しみ、関わりが広がる遊びの工夫-

特別研修員 幼児教育 石井薫（幼稚園教諭）

実態

同年齢（5歳児）の幼児の人数が少ないため、刺激を受け合うことが少ない。



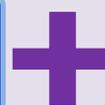
異年齢（4歳児）の幼児にも、自分の思いを伝え合い、人と関わって遊ぶことの楽しさを感じてほしい。

願い

異年齢の幼児と共に楽しみ、関わりが広がる遊びの設定

一人一人の幼児が夢中になれる遊び

心動かされる様々な体験を共有できる遊び



幼児同士をつなぐ教師の援助

実践1 ー小麦粉粘土遊びー

感触を楽しむ → 色作り・作品作り → 作品でみんなで遊ぶ

◎それぞれの遊びを認め、友達の遊びに興味が持てるような言葉掛けの工夫

【小麦粉粘土を作って4歳児を誘う】

★5歳児
☆4歳児（はな組）

【4歳児に教える】



★不思議…

★色が付いた…

★小麦粉と水を混ぜたよ。



☆作ったの、すごいね。



★すごいでしょ。

◎はな組さん、驚くね。

◎教えてほしいみたいよ。



★こうするといいよ。

自分たちで小麦粉粘土を作ったり、色が変わったこと、興味を持って夢中で遊んだ。

5歳児は『自覚』を、4歳児は『尊敬』や『憧れ』の気持ちを持ち始めた。

実践2 ー忍者になって楽しもうー

忍者になって楽しむ → 友達と忍者ごっこをする → みんなで忍者修行

◎幼児の思いを受け止め、幼児同士の思いをつなげるような言葉掛けの工夫

【4歳児に教える】

★5歳児
☆4歳児

【思いを出し合う】



★ゴムに気を付けて。

◎見本を見せながら、教えるのはどうかな？

◎お話があるって、聞いてみよう。



☆青チームが作りたい。



★次は鉄棒の修行だよ。

☆やってみる。

★いいね。

★ようい、ドン！



5歳児は、自信を持って遊びをリードしたり、4歳児に優しく教えたりしていた。

お互いの意見を聞き、受け入れたり、認めたりすることが多くなった。

成果

異年齢での関わりを通して、互いに親しみの気持ちを持てるようになった。さらに夢中になって一緒に遊んだことにより、友達のことに関心を持ち、互いに思いを伝え合い、認め合う姿が見られるようになった。

課題

異年齢での遊びに必要な環境を意図的・継続的に計画していくことや、人との関わりの中で、何が育つのかを考え、保育していくことが必要である。